

社会に参画する態度を育成する低学年における学級活動の指導の工夫 — チーミングの視点をもたせる計画シートを取り入れた係活動を通して —

安芸高田市立吉田小学校 栗原 団司

研究の要約

本研究は、チーミングの視点をもたせる計画シートを取り入れた係活動を通して、社会に参画する態度を育成する低学年における学級活動の指導の工夫について考察したものである。文献研究から、チーミングの視点をもたせる計画シートを活用した係活動を繰り返し行うことが、社会に参画する態度の育成に有効であることが分かった。そこで、児童の得意なことを基に、学級がより楽しくなる係のアイデアを考えさせた。そして、係のメンバーで集合し、計画シートを活用しながら、グループの考えを発展させていった。一定期間を経て、振り返りの時間を設定し、改善点を明確にした後、次の係活動を行った。その結果、児童の活動が、計画シートを基に、自ら進んで話し合い、創意工夫していく活動へと変容を見せた。このことから、チーミングの視点をもたせる計画シートを取り入れた係活動を行うことは、社会に参画する態度を育成することに有効であると言える。

キーワード：社会に参画する態度 チーミング 計画シート

I 主題設定の理由

文部科学省（平成27年）は、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会論点整理において「特別活動は、学校で生活する子供たちにとって最も身近な社会である学級や学校における生活改善のための話し合い活動や実践活動を通じて、主体的に社会の形成に参画しようとする態度や自己実現を図るために必要な力を養ったり、各教科等におけるグループ学習等の協働的な学びの基礎を形成したりする役割を果たしている。」¹⁾と述べており、社会に参画する態度を育成する重要性について示している。林義樹（2010）は、社会参画について、参加するだけでなく、場づくりをにない合うことだと述べている。

所属校の全校児童に行った特別活動に関するアンケートでは、「話し合うときは自分の考えをもって参加していますか」の設問に対し「とてもあてはまる」と回答した児童は48.9%、第2学年においても55.5%に留まっており、学校や学級において、よりよい生活づくりに積極的に関わっていない状況がある。自ら進んでよりよい生活に向け意見を出し合い、計画を立てて実践していくことができるよう、低学年から取り組むべき課題であると考え。

そこで、本研究では第2学年の学級活動の中で、

児童が協働する際、大切にすべき視点として、エイミー・C・エドモンドソン（2014）が述べているチーミングの視点をもたせる計画シートを取り入れた係活動を行う。具体的には、計画シートを活用させながら、児童が友達と個々の特性を生かしたアイデアを出し合い、計画を立て、グループの考えを発展させる係活動を行うことができるようにする。このような活動を段階的に複数回行うことで、児童は、学級の課題に対する取組を計画し、その役割を進んで果たそうとすることができ、児童の社会に参画する態度を育成していくことにつながると考える。

このように、チーミングの視点をもたせる活動を取り入れ、学級活動における係活動を行うことは、児童の社会へ参画する態度を育成することにつながると考え、本主題を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 特別活動において社会に参画するとは

国立教育政策研究所（2013）は、社会に参画する力を、これからの社会において起こりうる様々な倫理的問題に積極的に関わり、市民的責任を自覚して行動する力であると示している。渋谷真樹（2015）は、「特別活動の目的は、自ら意欲をもって社会に

参画していく人間を育てることである。」²⁾と述べており、特別活動が、社会に参画する態度を育成していくことに重要な役割を果たすことを示している。広岡義之（2015）は、特別活動における社会の範囲について「学級も学校のいわば小さな社会に変わらない。」³⁾と述べ、教育現場における社会を学級、学校と捉えている。杉田洋（2013）は、特別活動における参画について、ただ参加するだけでなく、計画の立案に加わることで述べ、渋谷（2015）は、他者と関わり、ともに新しい価値を生み出していくことであると述べている。新富康央（2008）は、小学校の学級活動において、よりよい生活づくりに参画するとは、自分たちの学級や学校生活をよりよいものにしようとして、進んで話し合い、諸問題を解決しようとするものであると述べている。

これらのことから、本研究における特別活動において社会に参画するとは、学級や学校において、諸問題を解決するために、参加するだけでなく、他者と関わりながら自ら進んで計画の段階から取り組むこととする。

2 特別活動において社会に参画する態度とは

林（2010）は、社会に参画する態度について、どのように成長するかを表1のように示し、参画は、自分が参加しているその場自体の場づくりに参加することであり、場をにない合い、小集団から組織へ情報を伝えていくことだと述べている。

表1 参加の3段階（林 1996, 2010 一部抜粋）

段階	キーワード	行動のレベル	関心の範囲
1 参集	いあわす	個人的	実行のみ
2 参与	かかわる	小集団的	評価まで
3 参画	にない合う	組織的	計画さらに 伝承まで

また、ロジャー・ハート（2000）は、子供の参画する態度について、子供たちの参画のはしごから①操り参画②お飾り参画③形だけの参画④社会的動員：子供は仕事を割り当てられるが情報は与えられている⑤子供が大人から意見を求められ、情報を与えられる⑥大人が仕掛け、子供と一緒に決定する⑦子供が主体的に取りかかり、子供が決定する⑧子供

が主体的に取りかかり、大人と一緒に決定するという8段階を示し、参画と呼べる態度は、④～⑧であると明確にしている。さらに、安彦忠彦（2008）は、ここでいう参画は、計画に加わるだけでなく、PDCAサイクルでいう、改善までをやる必要があると述べている。そこで、稿者は、林とハートらの段階を組み合わせ、本研究における社会に参画する態度への段階として表2に示す。

表2 本研究における社会に参画する態度への段階

段階	参画の状況の捉え
第1段階 【参集】	参加者はその場にいてあわしている。自分の意見をもち、実行する。
第2段階 【参与】	参加者は他者と関わり、行動は小集団的なものとなる。意見の交流、相互評価を行う。
第3段階 【参画】	参加者は場をにない合い、情報を伝えていくことから、行動は組織的になる。計画から参加、実施、省察、改善していく。

これらのことから、本研究における特別活動において社会に参画する態度とは、学級や学校の諸問題の解決に向けて、場をにない合い、計画段階から参加、実施、省察、改善し、小集団から組織へ情報を伝えていくこととする。

3 特別活動において社会に参画する態度を育成するとは

銀杏陽子（2009）は、学級づくりに参画する態度の育成において「学級活動を通して、児童が自分たちの学級生活をよりよいものにしようとして話し合い、役割を分担して遂行し、実践を通して学級生活を築いていくことが必要である。」⁴⁾と述べている。また、安彦（2008）は、共通理解した活動の目標を達成するための方法や手段を全員で考え出し、役割を分担し合い、協力してやり遂げていく過程で集団の一員としての自覚を深めたり、協力することの素晴らしさを体感したりすることが大切であると述べており、集団における活動の在り方や、役割分担をして活動することなどを具体的に示している。役割分担にかかわって、佐々木昭（1993）は、小学校低学年段階から、集団で学級内の仕事や役割分担を行うことが望ましいとし、第2学年では集団の素地ができ、学級内の仕事を分担して、熱心に取り組むことを喜び、それを友だちに認められることなどにより、仲間意識ができていくと述べている。林（2002）

は、参画を達成するためのきわめて具体的で有効な方法の一つに係活動を挙げ、参与から参画へ進む上で重要であると述べている。

これらのことから、本研究における特別活動において社会に参画する態度を育成するとは、係活動等を通して、低学年から小集団又は集団で話し合いながら、学級全体をよくしていこうと、計画的に活動を行うこととする。

4 社会に参画する態度を育成する学級活動の指導の工夫

(1) 学級活動における係活動

杉田（2009）は、係活動で身に付けた創意工夫の考え方や、計画的な活動の進め方は、より大きな集団での活動に生かされると述べている。基本となる考えとして、秋山麗子（2014）が述べている学年の発達段階に合わせた係活動の指導のポイントを基に稿者がまとめたものを表3に示す。

表3 学年の発達段階に応じた係活動の指導のポイント

	係活動の指導のポイント
低学年	学級生活に必要で、創意工夫できる活動を見付け、少人数で構成された係で、仲よく、助け合って活動できるようにする。
中学年	学級目標を達成するために必要な役割や創意工夫が生かされるような活動内容を考え、協力し合って楽しい学級生活ができる係をつくる。また、係活動の改善に取り組むようにする。
高学年	学級目標を達成するため、自分のよさを積極的に生かせる係に所属するようにし、自主的に係活動を進めることができるようにする。活動内容を創意工夫あるものに重点化し、信頼し支え合って、楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることができるようにする。

表3からも、係活動は、自ら構成した小集団が共通の目標に向かって相互に関わり、創意工夫しながら計画的に参加、実施、省察、改善していくことで、より大きな集団に関わる活動へと進んでいくことが分かる。そこで、係活動をよりよく機能させる手法として、組織行動について研究を行っているエドモンドソン（2014）の提唱する、組織としての活動の仕方を学習しながら実行するチーミングの理論を取り入れる。チーミングとは、メンバー全員が組織を

よりよくする視点を、行動を伴いながら共有し、継続して実行することである。チーミングの視点を児童自身が実感しながら、活動することにより、問題を解決したり、過程を修正したり、新たなアイデアを出し合ったりすることができ、創意工夫ある活動に発展させることができると考える。

(2) チーミングの視点をもたせる計画シートを取り入れた係活動について

エドモンドソン（2014）は、チーミングについて、効果的なチームをつくるために表4に示す「率直に言う」「協働する」「試みる」「省察する」という四つの視点が必要であると述べている。また、四つの視点は基本的な考え方として示され、活動の中で学んでいくと述べられているが、本研究では、チーミングの視点をもたせる計画シートを開発し、係活動に取り組んでいく。低学年においても相互に話し合いながら役割を分担して活動、改善することができ、児童の参画への段階が高まると考える。計画シートについて次頁図1に示す。

表4 チーミングの四つの視点

視点①	【率直に言う】 会話には、質問すること、意見を求めること、過ちについて話すことが含まれる。
視点②	【協働する】 協働の姿勢と行動があって初めて、プロセスを推し進めることが可能となる。
視点③	【試みる】 何度も試みが行われるが、これにより個人と個人の交流につきものの新奇さと不確実性を受け容れることになる。
視点④	【省察する】 プロセスと結果をしっかりと観察し、明瞭に質問し、よく話し合うことが重視される。

(3) チーミングの視点をもたせる計画シートを取り入れた係活動について

杉田（2013）は「係活動を組織する際に注意することは、特に低学年の学級の場合には、学級という生活の場全体に目配りできるようにすることである。まず、仲のよい友達ではない他のグループに目を向けさせることから始めることが必要となる。」⁵⁾とグループを活用して、視野の広がりや活動範囲を広げる必要性を示している。そこで、チーミングの視点をもたせる計画シートを活用したグループ活動

を行うことによって段階的、継続的に係活動を行う指導をする。小グループをチーム化させることで、よりよい人間関係を築きながら、係としてよりよく機能させ、組織として活動させていく。まず、自分のよさや好きなことを考え、やりたい係をイメージする。次に児童間交流を行い、具体化したものを参画の発達段階とチームングの視点をもたせる計画シートを活用して、係活動として指導することにより、社会に参画する態度を育成する取組とする。これらの学習の流れを図2に示し、これまで述べてき

た研究の構想図を次頁図3に示す。

III 研究授業について

1 研究の仮説

係活動においてチームングの視点をもたせる計画シートを取り入れ、児童が自ら活動する計画を立て実行すれば、低学年における社会に参画する態度を育成することができるであろう。

月 日 () 2年 () 名前 ()
係パワーアップ計画シート

めあて:
ポイント:
1 係かつどうのじゅんぱについて考えて、話し合います。
自分の考え 話し合ったこと
(い見を書いたり、しつもん (友だちと話し合って、い見を
をしたりしましょう。) まとめます。)

2 係かつどうのくふうをして、またチャレンジしましょう。
くふうについての自分の考え チャレンジについて話し合ったこと
(きまったことについてさら (友だちと話し合って、チャレン
にくふうしましょう。)

ふりかえりまにここにマークでかきましよう
がんばったことの数字に丸をつけよう。 1 い見を書いたら、しつもんしたした
ふりかえり、チャレンジした。 4 話し合い、つぎはどしたらいいか考えた
★がんばったことを書きましよう。
○つぎの計かくを立てよう。
【時間】数字に○をつけ 【話し】数字に○をつけよ 【やること】
よう。 2 がんばろう 1 話しつ 2 友だちと話し
2 がんばろう 2 がんばろう 3 がんばろう 4 がんばろう 5 がんばろう 6 がんばろう
()

活動のめあてと焦点化
するチームングの視点

チームングの視点①
率直に言う

チームングの視点②
協働する

チームングの視点③
試みる

チームングの視点④
省察する

次の活動予定を立てる

計画シート使用上の留意点について

1 チームングの視点を基に、自分の考えを
書くことができるよう、記入欄を作成する。
視点①:意見を言う。質問する。
視点②:共通の目標をもち、活動する。
視点③:改善し、工夫する。
視点④:振り返り、相互評価を行う。改善点を
明確にする。

2 自己の振り返りや、係としての活動の評価
を行う欄を設定する。

3 次時の予定や活動についての確認ができる
欄を設定する。

4 シート右に、アイデアや準備物などを書
くために、自由記述欄を設定する。

5 集合して、シートを基に活動することを確
認する。

6 児童が必要に応じて、シートを使用をする
ため、教室に常備しておく。

図1 チームングの視点をもたせる計画シートについて

活動内容 【月日】	学級活動 (2) [12月1日] 1組第2校時 2組第3校時	計画委員会 [12月8日] 1組 [12月9日] 2組	学級活動 (1) [12月9日] 1組2校時 [12月10日] 2組3校時	係活動① 12月10日～14日	学級活動 (2) [12月15日] 1組第2校時 2組第3校時	係活動② 12月15日～22日
題材 議題	「係活動について もっと知ろう」	「議題箱を見て、 議題を決めよう」	「学級がパワー アップする係を 決めよう」	「計画シートを 基に、係活動を進 めよう」	「係活動の振り 返しをしよう」	「計画シートを 基に、係活動を進 めよう」
ねらい	よりよい係活 動について知り、 自分の得意なこ とや好きなこと を基に、学級に必 要な係や活動内 容を考える。	話し合いの方法、 よりよい学級を つくるための係 と人数の原案の 確認をする。	係の内容とメン バーを決め、 係の目標や具体 的な活動を話し 合う。	係活動につい て具体的な内 容、活動時間や 場所を考え、準 備し、実行する。	係活動につい て、個人や学級全 体で振り返り、改 善点を明確にし、 相互評価を行う。	係活動につい て見直し、内容を 考えて準備し、実 行する。
計画シートの 工夫と焦点化 する視点	自分の得意な ことや好きなこ とを基に、学級が よりよくなる係 を考える。 視点①	前時に考えた係 や人数から、学級 の係の原案を考え、 話し合いの流れ を確認する。 視点②	同じ係で、目 標をもち、協働 して活動する。 視点②	係で活動した い内容を明確に して、意見を言 い合い、予定を 立て、実行する。 視点②③④	係の振り返り を行い、改善点を 見付ける。 視点④	改善点を明確 にして、予定を立て、 実行する。 視点②③④
表2を基にした 参画の具体	【参集】自分の考えをもち、計画シートに記入し、意思 表示をしている。 【参与】話し合い、自分の意見を述べ、意思決定をする。			【参画】話し合い、計画を立て、情報を発信し、活動 の改善をしている。また、自己評価、相互評 価を行っている。		

図2 チームングの視点をもたせる計画シートを取り入れた学習の流れ

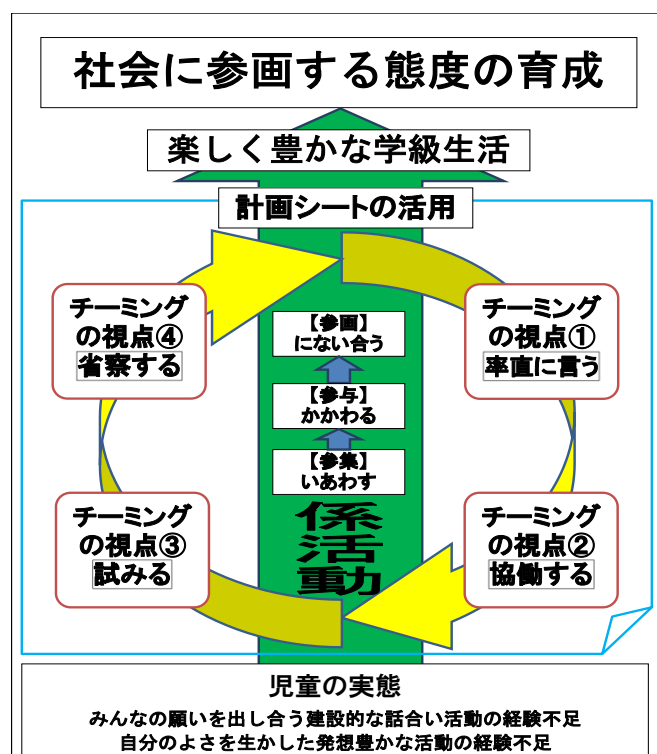


図3 本研究の構想図

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表5に示す。

表5 検証の視点と方法

検証の視点	方法
○チーミングの視点を持ち、自分から進んで係活動をすることができたか。 ・計画シートにより、段階的に計画を立てて活動できたか。 ・計画シートによりチーミングの視点を持ち、活動することができたか。	○事前・事後アンケートの分析と考察 ○計画シートの記述分析 ○授業記録、活動記録の分析と考察 ○行動観察

IV 研究授業について

1 研究授業の内容

- 期 間 平成27年12月1日～平成27年12月22日
- 対 象 所属校第2学年(1組23人, 2組22人)

2 研究授業の概要

図2に示したように、学級活動(2)では、題材を「係かつどうについてもっと知ろう」とし、低学年における学級生活に必要で、創意工夫できる係活

動について知る学習を設定した。児童に、自分たちのよさを生かす係活動が、学級全体をよりよく楽しいものにしていくことへつながることや、創意工夫できる係の必要性に気付かせた。学級活動(1)では、学級活動(2)で学習した児童の「よりよい学級になる係活動をやりたい」という願いから、議題を「学級がパワーアップする係を決めよう」とし、学級会を行った。学級活動(1)では、計画シートを活用し、チーミングの視点に沿って、係ごとに計画を立て、児童間で話し合い、活動を進めさせるようにした(係活動①)。また、事後の活動として、学級活動(2)「係活動の振り返りをしよう」を設定し、計画シートを基に活動内容を振り返り、相互評価、活動の改善を行った。これらの取組を通して、児童が計画シートを使いながら、自主的に集合して、話し合い、改善しながら、よりよい学級になるための係活動を行った(係活動②)。

V 研究授業の分析と考察

児童の変容について検証するため、事前・事後にアンケートを実施し、結果の分析を行った。また、計画シートへの記述、行動観察における発言などを記録、分析した。

1 チーミングの視点を持ち、自分から進んで係活動をすることができたか

(1) 計画シートにより、段階的に計画を立てて活動できたか

学級活動(2)「係活動についてもっと知ろう」で、自分たちの得意なこと、好きなことから係を考えていくことが、よりよい学級づくりにつながることを学んだ児童は、「よりよい学級、楽しい学級にするにはどんな係があるとよいか。」という問いかけに対し、みんなの願いや自分のよさを生かした活動を出し合い、学級活動(1)「学級がパワーアップする係を決めよう」でまとめていった。話し合い後、すぐに全ての係が、係活動ポスターの作成を行う場面が見られた。しかし、これまでに創意工夫した係活動を経験していない児童の中には、具体的な活動や話し合いの流れがイメージできない児童がいた。そこで、計画シートに書いた考えを基にして、話し合うよう指導したところ、児童は、徐々に時間や場所、活動内容を決定したり、活動内容に合わせ互いに声をかけ合い、行動したりする姿が見られるようになった。次頁表6に示すように、係で情報を共有する話し合い活動が全ての係において増加している。そ

表6 係の種類と活動内容及び活動回数と参画する態度の変容

学年組	係名(人)	活動内容	係活動① 活動回数 (回)	係活動② 活動回数 (回)	係活動①で 見られた参画 する態度(人)	係活動②で 見られた参画 する態度(人)
第2学年1組	漢字クイズ係(4)	漢字のクイズを出す	5	19	8	16
	整理整頓読書係(3)	本の読み聞かせ等本に関わる活動を行う	3	17		
	図工係(4)	おもちゃを作り、遊んでもらう	4	9		
	相談係(4)	友だちの相談にのり、解決する	3	7		
	音楽係(4)	音楽室の楽器で演奏をする	3	6		
	運動・ダンス係(4)	運動の計画・練習・紹介をする	2	6		
第2学年2組	教え&演奏係(4)	楽器の演奏をしたり教えたりする	5	14	10	16
	試し係(4)	おもちゃを作って、試しに遊んでもらう	4	13		
	運動・探検係(4)	遊びの企画を提案する	3	8		
	工作係(4)	楽しい工作を作って、遊んでもらう	2	4		
	スポーツ係(3)	運動を行ったり、教えたりする	1	6		
	盛り上げ係(3)	他の係活動を助け、盛り上げる	1	4		

※係名については、児童は既習漢字を活用して表記している。[第2学年1組23人、第2学年2組22人]

して、それに伴い、この研究で目指している参画する態度も多く見られるようになった。

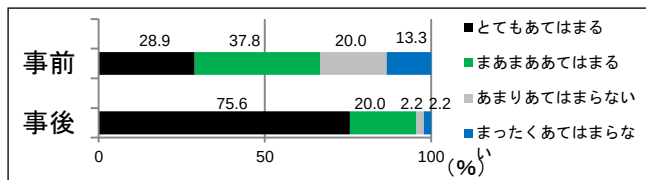


図4 「友だちと、いつ、何をするかを決めて活動するかを考えています。」の設問に対する児童の回答の割合 (第2学年45人)

また、図4に示すとおり「とてもあてはまる」と回答した児童の割合が28.9%から75.6%に46.7ポイント増加しており、いつ、何をするか考え活動できたと実感することができた児童が増えた。回数を重ねるごとに、児童は活動の具体を考え、決めたことを実行するための事前の準備や打合せをしながら、活動を進めることができるようになってきた。

(2) 計画シートによりチーミングの視点を持ち、活動することができたか

児童がチーミングの視点を持ち、よりよい係活動を目指して活動することができたかについて、児童に行ったアンケート調査と実際の計画シートの活用状況から述べていく。図5・図6・図8・図9に、チーミングの四つの視点に関する学級活動アンケートの結果を示す。

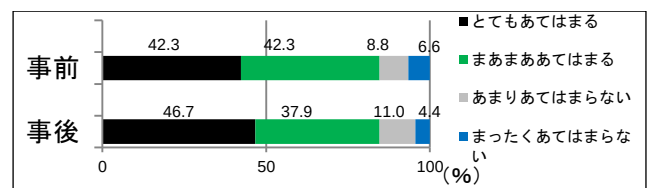


図5 視点①「話し合いでは、質問したり、発表したりしています。また、友だちに直した方がよいことも伝えていきます。」に対する児童の回答の割合 (第2学年45人)

図5の結果を見ると、視点①「率直に言う」に関する設問において肯定的に回答した児童の割合は変わらなかったが、「まったくあてはまらない」という児童は減少した。アンケートには、「相談するときに計画シートを使った。」「困った時に計画シートを見て助かった。」という記述が多くあり、計画シートが児童にとって「率直に言う」ことに有効だったと実感していることが分かる。児童は、計画シートに、事前に考えを記入して、又は記入しながら話し合いを行ったことで、意見を述べたり、質問したりすることができ、活動が活性化したと分析する。しかし、低学年は、集団で活動すること、話し合うこと自体の経験が少ないことから、計画シートの使用と話し合い方法について、シミュレーションの時間を設定するなど、さらに児童が活用しやすくする工夫が必要であると考えます。

次頁図6の結果を見ると、視点②「協働する」に関する設問において「とてもあてはまる」と回答し

た児童の割合は、44.5%から77.8%へと33.3ポイント増加した。児童は、視点②における活動において、係で同じ目標をもち、計画シートを基に活動の予定を立て、役割分担した自分の活動を確認する場面で活用した。アンケートには、情報を共有しながら活動したことによって、「係の中の一人一人が協力して話し合いをした。」「みんなが協力して楽しくできた。」と記述しており、「協力してできた」と実感することができた児童が増加した。

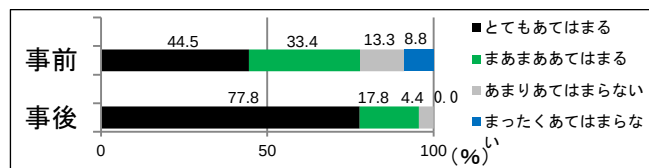


図6 視点②「友だちと目標をもって、協力して、係活動をしています。」に対する児童の回答の割合（第2学年45人）

具体的な行動の例として、教え&演奏係では、役割分担を行い、準備物の確認をする役、チケットの下書きをする役、ホワイトボードに活動内容を書く役、帰りの会で情報を発信する役に分かれ、予定に合わせて活動を進める姿が見られた。それぞれの役割が、一つの係活動として機能する取組が行われていた。低学年は、時間を決め、集合して話し合うなどの活動に慣れていく段階にあるので、計画シートに、場所や時間を明記する欄があることが有効であったと言える。各係がホワイトボードに書いて情報発信した様子を、図7に示す。

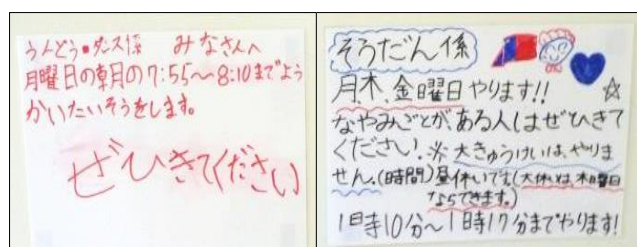


図7 ホワイトボード 各係からのお知らせ

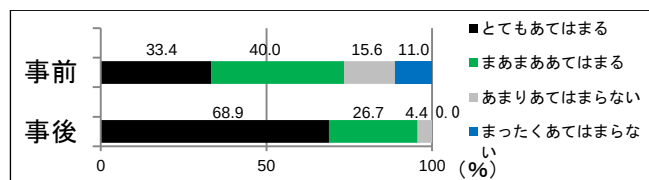


図8 視点③「話し合ったことを基に、いろいろなことにチャレンジして、活動を行っています。」に対する児童の回答の割合（第2学年45人）

図8の結果を見ると、視点③「試みる」に関する

設問において「とてもあてはまる」と回答した児童の割合は、33.4%から68.9%へと35.5ポイント増加した。視点③の欄に、係で話し合った案に工夫を加え、さらによくしていこうとする動きがあった。計画シートの記述には、「賞状や賞品を作って、みんなが楽しめるようにしたい。」「ほかのおもちゃも作りたい。」などの記述があり、現在の活動をよりよくする姿が見られた。例えば、漢字クイズ係はクイズを実施する活動に加え、賞状を作った。また、図工係はおもちゃを作るだけでなく、みんなが遊ぶ会場を設定し、ミニフェスティバルと題したおもちゃコーナーを作った。教え&演奏係は、曲の練習をすると同時に音楽室を開放し、みんなが楽器を演奏できる時間を企画した。これらのような各係の新しい試みや友だちのアイデアを取り入れ、創意工夫しながら実行する様子が見られた。

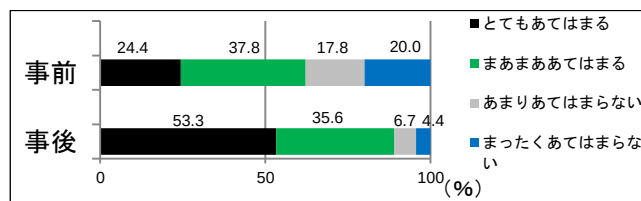


図9 視点④「活動した後、よかったこと、直すところをはっきりさせて、振り返りをしています。」に対する児童の回答の割合（第2学年45人）

図9の結果を見ると、視点④「省察する」に関する設問において「とてもあてはまる」と回答した児童の割合は、24.4%から53.3%へと28.9ポイント増加した。児童は、振り返り、相互評価を行うことで、活動を肯定的に捉えることができたと考える。アンケートには「みんながどんどん進めてくれたことがよかった。次は1・2組で協力したい。」「新しい活動をして、気持ちが強くなった。」などがあり、よい点を挙げながら、次時の活動のことも考える記述が見られた。活動のよい点、改善点を明確にして、次の活動へ進むことから、結果として児童が自分は学級のこと計画段階から参加できたと実感するに至り、さらに活動しながら改善していると分析する。

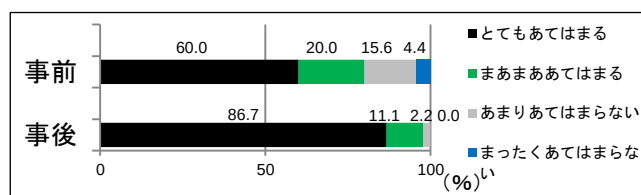


図10 「係活動は好きです。」に対する児童の回答の割合（第2学年45人）

前頁図10に示すように、97.8%の児童が係活動を肯定的に捉えている。アンケートには「よいチームで話し合いができるから」「係の中の一人一人が協力して話し合いをしたから」「質問や発表ができるから」「考えたものができるから」などがあり、実際に計画し、活動を行い、学級をよりよいものにしていったという気持ちが記述に表れていた。検証授業を終えた三学期も児童が計画シートを継続して活用し、係活動を行っている。

しかし、全体を通してアンケートで否定的な回答をした児童が2名いる。A児は、計画シートに「工作をして、みんなを楽しませたい。」と記述し、係のリーダーとして、話し合いを進め、率先して活動を行っていたが、自分の意見が活動に反映されないなどの理由から、否定的な回答に至ったと考えられる。B児は、係のメンバーと考えたことを計画シートに記述していったが、具体的な行動に移すことができず、十分な係活動を行うことができなかったことが原因だと考えられる。A児、B児のように、集団での話し合いや活動を苦手とする児童にとっても、計画シートは、メンバーとのつながりを生み、一定の活動を行うことに有効であったが、さらに、充実した活動を行うために、本研究における計画シートを活用した係活動のよさを可視化して広げ、取組を継続して行う必要があると考える。

以上のことから、チームングの視点をもたせる計画シートを取り入れた係活動を行うことで、進んで役割を果たそうとするなど、よりよい学級づくりへ参画しようとする児童の態度を育成することにつながったと分かり、一連の活動が有効であったといえる。今後もチームングの視点をもたせる計画シートを活用した継続的な取組を行うことによって、社会に参画する態度を育成することができると考える。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

低学年において、チームングの視点をもたせる計画シートを活用した係活動を行うことは、児童が学校・学級という社会に参画する態度を育成する上で有効であることが分かった。また、計画シートを活用し、児童が自ら計画的に係活動を行う指導方法を示すことができた。現在も継続して計画シートを取り入れた係活動を行う児童の様子から、低学年におけるチームングの視点をもたせる計画シートを活用した係活動を行うことは、中学年、高学年への発達

段階の基礎を培うことにつながることも分かった。

2 研究の課題

検証において、計画シートが有効であることが実証できたが、低学年においては、計画シートに記入した内容が、実際に行動する場面につながりにくい児童もいることが分かった。チームングの視点をもたせる計画シートの活用方法などについて、定期的に指導を継続する必要があると考える。また、児童が自主的に係活動を進める上で、具体的な活動時間の設定方法を指導し、児童が定期的に継続して活動しやすい時間配分を考える必要があると分析する。さらに、話し合いの形態や発達段階を考慮したより使用しやすい計画シートを開発して、低学年だけでなく全ての学年において、社会に参画する態度を育成する活動としての係活動を継続して指導していく。

【引用文献】

- 1) 文部科学省（平成27年）：『中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会における論点整理』http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf
- 2) 渋谷真樹（2015）：『集団を育てる特別活動』ミネルヴァ書房 p.155
- 3) 広岡義之（2015）：『新しい特別活動—理論と実践—』ミネルヴァ書房 p.6
- 4) 銀杏陽子（2009）：「学級活動の指導」『平成20年改訂 小学校教育課程講座 特別活動』ぎょうせい p.27
- 5) 杉田洋（2013）：『自分を鍛え、集団を創る！特別活動の教育技術』小学館 p.78

【参考文献】

- 林義樹（2010）：「社会参画」『新訂 キーワードで拓く新しい特別活動』東洋館出版社
- 林義樹（2002）：『参画教育と参画理論—一人間らしい「まなび」と「くらし」の探求』学文社
- エイミー・C・エドモンドソン（2014）：『チームが機能するとはどういうことか 「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ』英治出版
- 新富康央（2008）：『小学校新学習指導要領の展開 特別活動編』明治図書
- ロジャー・ハート（2000）：『子どもの参画—コミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際』萌文社
- 安彦忠彦（2008）：『小学校学習指導要領の解説と展開 特別活動編』教育出版
- 佐々木昭（1993）：『特別活動の研究と実践』教育開発研究所
- 秋山麗子（2014）：「実践編—初めての学級（ホームルーム）担任—第1章 小学校」『入門特別活動 理論と実践で学ぶ学級・ホームルーム担任の仕事』学事出版